

婦人と子ども

第十二卷第十號

事物に念を入れる習慣養成の必要

文學博士 中島 力造

一
これは更めて申上げるまでもないことであります。人間にんげんの知識ちしきが進み、社會しゃくわいがだんくんと發達はつたつして參りますると、今までは極めて單純たんじゆんであつた總ての事物じぶつが、次第しだいに複雑ふくざつの度を増して來るのであります。従つて其の心得こころえを以つて萬事ばんじに注意ちゆういし、念ねんを入れて物事ものごとをする習慣しゆくわんをつけて置きませぬと、總てに損害そんがいも多くなりましますし、また或る場合ばあひには不測ふそくの危險きけんを醉し、取り返しとがへのつかぬ過あやまちを見るみことが一にして止まらぬと思ひます。例へ

ば器物きぶつの取扱とりあつかひなどに就いて考へて見ましても、文明ぶんめいの社會しゃくわいに使用しやうじようされて居る器物きぶつは、未開人みかいじんの間あひだに使はれて居る器物きぶつに比して、遙かに巧妙こうめうに出來て居ると共に、それが破損はそんの度も遙かに多いのであります。未開時代の器物きぶつを使用する心持こころもちや態度たいどで、文明の器物きぶつを使用してはならぬのであります。未開人の造つた器物きぶつは粗雑そざつに出來て居りますので、少しは手荒てあらき取扱とりあつかひをいたしましても容易よういに毀れて役にたゝなくなることはありません。い。けれども、開明人かいめいじんの造つた精密せいみつなる器物きぶつは、

さうは出来て居らぬのであります。

二

爰に特に兒童の時に此物事に念を入れる習慣を養ふ必要を語を強めて申上げて置き度いと思ふのであります。と申すのは、わが國は僅々四五十年以前より遽に歐米前進國にて發達したる事物を取入れたのであります。換言すれば、我が國人は、彼國の精巧なる器物を使用する事になつた。詰り一躍して彼れの長を取り、其の利器を使用する事になりましたが、それを使ふだけの練習が出来て居らぬのであります。未開時代の粗雑なる器物を使用すると同一の心持で、文明の利器に對して居るのであります。その爲めに、ついで過失の度が彼の國よりも多くなるのであります。卑近なる例を擧ぐれば懷中時計の取扱にしまして、日本の人は其の扱ひ方が粗暴である爲めに、時計の修繕が非常に多いと云ふことであります。西洋諸國

の人々にあつては、時計を損ふことは殆んどないと云つてよろしいさうであります。これは全く念を入れて取扱ふ習慣がついて居るからであります。机の上に置くにしても、發條を巻くにしても、常に用心して取扱ひさへすれば、さう無暗に破損することがなからうと思ひます。その他、總て硝子類の器物は毀れ易いことは何人も知りきつて居ることでありませう。けれども、其の受渡をするに當つて、確に相手の人が手にしたかどうかを見定めないうちに、自分で手を放す。臺の上に置くにしても、下に落ちぬかと念を入れ、物に當らぬか器物の上に他の物が倒れて來ぬかと念を入れ十分注意して取扱はぬので、その爲めに自然と破損の度が多くなるのであります。

三

ランプ其の他の火器より起る過失の多いのも要するに其の取扱に念を入れることを忘れて居る

爲めに外ならぬのであります。これから冬季に入りますると、どうしても火事が多くなりまゝす。これも歐米諸國の例に比すると、矢張り我國の方が多いのであります。これもストーブや火鉢の火を念入れて消火することを怠つたり、灰を捨てるにしても、十分の注意を以つて仕末をつける習慣が缺けて居るからであります。傳染病が流行して來ますと、當局者から消毒をやかましく云はれる爲めに、何れも一通りの消毒はいたします。けれども同じするにも、十分に念を入れてせずに、たゞ形式に止まつて居る爲めに、何の効果もないのが今日の有様であらうと思ひます。日本の學校ほど窓硝子を毀す國はないさうですが、實際にどの學校へ行つて見ましても、窓硝子の毀れて居ない學校はないやうであります。又病人に與ふる藥を誤つた爲めに命を失はしめたる例が少くありません。昔の漢法醫の盛つた藥であると、少し位の間違が

あつても、その爲めに生命に關する程の害はありません。すまいが、醫學的知識の發達したる今日の藥は、少しの分量及び質の相違で意外の結果を見るのでありますから、十分に念を入れて取扱はねばならぬのに、それをせぬ爲めに人を死に到らしむるやうな場合が起るのであります。斯ういふ例を一つ掲げて見れば、殆ど數へ盡されぬ程であります。人が單に、『これは過失で』として、許して居る事柄の殆ど總ては、要するに取扱上念が入らぬといふことに歸因して居るのであります。

四

これを日常の社交的關係に就いて見ましても、矢張り前と同様の弊が隨所に行はれて居ると思ひます。例へば人と約束をするにしても、其の事に深く念を入れてせぬ爲めに、種々の誤解や行違が澤山に生ずるのであります。言葉づかひの上にも、出來るだけ明瞭

に話す、不明なる處は飽くまでも反覆して確めて置くといふ習慣を造る事が大切であらうと思ひます。世の中には談話に念を入れたり、問ひ返したりすることは、失禮のやうに考へて、感情を害する人もあるやうでありますが、それは誤りであると思ひます。さういふ間違つた考を持つて居た時代もあつたかも知れませぬが、今日は最早やさういふ時代ではなくなつて居ります。さういふ無意味の心配で、重要な事件に對して十分に念を入れぬので、なさなくともよい間違を生ずるのは却つて幾倍の失禮に當るかも知れぬ譯であらうと思ひます。

もう一つ大切なのは、今の人は讀書に念を入れて讀む習慣が薄らいで居ることです。昔は書籍の数が少かつた爲めに、多讀が出来ぬので、十分に念を入れて其の一冊を精讀し、其の一言一句を味到するといふ風でありましたが、今日は全

くこれと反對で、精讀はしなくとも、一言一句は味はなくとも、出来るだけ澤山の書に眼を通して置けばよいと云ふ風になつて來て居ります。これも誤りであらうと思ひます。人の説話を聞くにしても、昔は演說會などと云ふものがなく、聞く場合には目の邊り先輩に接して、其の經驗なり教訓なりを聞く爲めに、十分に念を入れて、身に取り入れることが出来たのであります。それ故に比較的先輩の士に接することが少なかつたけれども、質に於て良い知識を持つことが出来たのであります。今日は反對に量に於ては多くても、眞に我が心に色讀することが少いのであります。要するにそれは讀書や講義に深い注意を拂はぬからであります。

五

現今の社會では、人の説を誤て聞いたり、書に現はれて居る意味を間違つて解釋することに對し

て、何等の道徳的意識を有つて居らぬばかりではなく、其の誤つた解釋を第三者に傳達する場合にも、何等の社會的制裁がないのであります。これは二者共に大なる道徳的罪惡であらうと思ひます。少くとも相手の感情を害するは勿論、事態の重要なる問題にあつては、惹いて法律上の裁決を受くるに到る如き場合が往々にして生ずるのであります。これは初めより間違はうと云ふ惡意のあつてすることでは勿論ないので、たゞ不注意であつた結果、十分に念を入れなかつた爲めに生じた間違でありまして、さういふ間違を尠からしむるにはどうしても子供時代より、總ての物事に念を入れる習慣をつけて置くことが必要であります。更らに一步進んで之れを考へて見ますと、さういふ多くの間違を生ずる最も主なる原因は、自己の行爲に對する責任の感じが稀薄である爲めであり、法律上の制裁さへ免れれば、其の他の行

爲に就いては、どういふ結果を見ようと思つて居るに、道徳的責任の意識が全く缺けて居る爲めであらうと思ひます。然し人は法律ばかりで立ち得るものではない、今後の社會は是非とも、何れの方面に對しても責任の感じの強い人々によつて建てられなくてはならぬのであります。さういふ責任の感じを養ふにも、子供の時より總ての物事に念を入れる習慣を養ふことが必要になつて來るのであります。

六

然らば此の習慣を養ふには、兒童期の何れの時代から始むべきであるかといふ點に就いては、兒童其のものゝ心理的發達の過程から考へて見まするならば、またいろゝの議論もありませうけれども、其の道に専らざる自分は、さういふ細部に涉つてお話をするだけの用意もありません。然し乍ら、一般に此種の習慣は、或る時期より急遽

に養成することは困難であります。殊に成人に達してからは、容易に其の意識を習慣化することが困難であります。また一方に、さういふ様の嚴重なる家庭に人となつた者は、さうでなき家庭に育つた人に比して、遙かに其の性情を異にして居ることを以つて見ますと、これは是非とも幼稚園及び小學校時代より、養つて行くべきものであらうと考へるのであります。

幼稚園の職能としては、種々なる役を有して居りませう。然し子供にいろいろの事柄を教へ込む

子供は子供らしく教育せよ

無邪氣は子供の生命

子供の無邪氣な、天真爛漫なこと程、世に美し

ことよりも、斯ういふ習慣をつけてやるのが、一層大切の仕事ではあるまいかと考へるのであります。児童は知識慾の盛なものでありますので、もとめて其慾望を刺戟しなくても、児童自ら啓發して行くに十分であります。然し今申した如き習慣に對しては極めて其の感じが鈍いのみならず、却つて之れを打ち毀して行かうとする傾向の多いものでありますので、其の保育にある人は十分の注意と指導とが大切であらうと考へるのであります。(談、在文責記者)

文學士 速水 混

いものはありません。子供の如何にも無邪氣に遊んで居る有様を見ると、恰度、天上から神の使で